

定時総会特集号

2000年8月

目 黒 稲 門 会 発行人:真仁田勉 事務局長:樋口定廣 編集人:岩崎正夫 〒152-0003 目黒区碑文谷3-4-17 TEL:03-3723-2637, FAX:03-3723-9720

目黑稲門会会報

第1回定時総会、開催。

平成12年7月1日第1回定時総会を午後5時よりウエスティンホテル東京において樋口事務局長の司会により開催した。真仁田会長挨拶のなかで当会員の丸山忠久氏が将棋名人獲得、手塚仁雄氏が衆議院に当選の祝辞を述べ、大学校友会事務局長口元周策氏の2002年以降の大学の未来図、募金活動の協力要請があり、議長に阿部喜久雄氏、副議長に海沼美智子女史を選出し会議が始まった。事業報告、各8部会報告、会報報告もスムーズに進み、審議事項に関しては山口一男氏を幹事に追加専任し、事業計画、予算案も満場一致で通過した。中沢信平副会長の閉会の挨拶にて午後6時20分終了一つ念撮影をした。

東二部の懇親会は、三田恵子指揮による「紺碧 の空」のマンドリンのなか、入場。大竹一子幹事 司会のもと、会長挨拶に続き、ご来賓の口元大学 校友会事務局長、日黒三田会副会長深津和彦氏、 港稲門会会長土屋喜一氏、品川稲門会会長(当会 相談役) 桜井輝隆氏の祝詞の後、横山大副会長の 乾杯の音頭により懇親の輪が広がった。宴たけな わとなるなか「人生劇場」のマンドリンの奏でる なか上川副幹事長をアシストに往年の東映フライ ヤーズスター松岡雅俊氏、かつての早稲田のエー ス難波秀哉氏の野球談義、品田一良相談役の大学 バレーボール部長時代の懐古談、中沢信平副会長 の大学への提言等、演壇をうめ大竹一子司会者は 大わらわの忙しさであった。最年長の大賀正雄氏 の歩け歩けの健康第一のコメントがあり、口元校 友会事務局長の音頭で肩を組み「校歌」を合唱、 目黒三田会来賓者を前にエールをおくり、中西幹 事の閉会の挨拶をもって午後8時30分終了した。



会の挨拶を述べる眞仁田会長

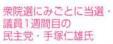




会司会の樋口事務局長

目黒稲門会 第1回総会・懇親会グラフィティ

早稲田大学目黒稲門会





懇親会・乾杯の音頭をとる横山副会長



20才から80才代まで、 懇親会は世代を超えて盛上りました。



「早稲田スポーツ再興を!」の荒瀬先輩の熱弁に場内爆笑の渦



懇親会の司会役をみごとに務めた大竹幹事

ご来賓の方々(お忙しいなか、有難うございました。)



校友会事務局長・口元周策氏



港稲門会会長·土屋喜一氏



品川稲門会会長·桜井輝隆氏



目黒三田会副会長·深津和彦氏/ 鷲尾健志氏

(平成11年1月30日~平成12年3月31日)

「併付・田」

			(牛)丛。[7]
	科 目	金 額	備考
	年会費 1)	632.000	(117名×5.000+9名×3.000)
収	総会収入	525,000	設立総会(H11年1月)
	臨時総会収入	564,100	平成12年1月
., [組織強化補助金	180,000	校友会
入	雑収入	117,164	祝儀・寄付金・受取利息等
	合 計	2,018.264	
	会議費	1,024,676	設立総会・臨時総会・役員会等
	部会運営費	197,501	
	会報費	118,650	印刷費等
収	交際費	138,367	他稲門会・校友会等
	事務用品費	171,768	日黒稲門会旗·印鑑作製費等
入	通信費	90.730	切手・郵送費等
1	維費	22,061	振込料等
	次期繰越金 2)	254,511	
	合 計	2.018.264	

- 注1) 年会費中20,000円は、平成13年度の前受年会費です。
 - 2) 次期繰越金の内訳は、現金:16.179円 預金:238.332円です。

監查報告

ち会計監事は、平成11年1月30日から平成12年3月31日までの第1 期会計年度の会計報告を監査いたしました結果、適正かつ正確であ ることを認めます。

且基稲門会

平成12年6月19日 会計監事 土方 正巳 会計監事 林田 雅敏

目黒稲門会第2期予算

(平成12年4月1日~平成13年3月31日)

(商传:10)

	科目	金 額	備考
	前年度繰越金	254,511	
収	年会費	655,000	(125名×5,000+10名×3,000)
	組織強化補助金	180,000	校友会
入	総会収入	550,000	
	維収入	50,000	祝儀等
	合計	1,689,511	
	会議費	600,000	総会・役員会等
1	部会運営費	240,000	30.000×8
	地域貢献活動費	100,000	
収	会報費	120.000	印刷費等
	交際費	170.000	他稲門会・校友会等
	事務用品費	170,000	封筒製費等
入	通信費	150,000	切手・郵送費等
	雜費	30,000	振込み手数料等
	次期繰越金	109,511	
	合計	1.689.511	

〈お知らせ〉

- ●8月の三金会は19日(土)です。お間違え無きよう、お願い申 しあげます。
- ●10月中旬、ゆったりした日程の中国旅行を実施します。詳細 は次回EXPRESSで。
- 大学から125周年募金の要請がありました。詳細は事務局ま でご連絡ください。
- 当会報・EXPRESSでは、会員の皆様の投稿を歓迎します。どし どしお寄せください。

▶ 丸山八段、みごと将棋名人に ◆

6月27日、第58期将棋名人戦において、丸山忠久八段(平成5年・社学)が佐藤康光 名人を4勝3敗でくだし、初の将棋名人位に就きました。おめでとうございます。丸山 新名人は、昨年の全日本プロ将棋トーナメントで初優榜。今年の名人戦A級順位戦を8 勝1敗という抜群の成績で勝ち抜き、佐藤名人の挑戦者となりました。今回のタイトル 戦は2連勝-3連敗-2連勝という激戦の来のタイトル奪取でした。彼の研究しつくされ た限実を構図には定評があります。500対局以上で通常職率が7割を載すのは、羽生四 冠と丸山八段の二人だけ。今後の活躍が大いに楽しみです

「目黒稲門会 ビアパーティ」のお誘い



総会も無事に終わり、皆様方の御要望により懇親会の続編として「気軽に集れるバ ーティーを企画いたしました。ビール飲み放題です。

御家族の皆様お誘いの上、ぜひご整加下さい E.

日時 8月25日(金)午後6:30~午後8:30

場所 日比谷 帝国ホテル 17階 レインボーラウンジ レインボーラウンジ入口で日里稲門会とおっしゃって下さい。

会費 1名様 3.500円 (おつまみ代、消費税を含む)

ご家族の方も同願となります。当日進めさせて頂きます

生ビール&フローズンカクテル飲み放置。 (エピス・スーパードライ・黒化・一番搾り)

ウィスキー。ワイン等別料金 | | | | | | | | | | | | で召し上がれます。 アルコールを召し上がらない方は申込時にお明出下さい。ソフトドリングで対応でき

申込み方法 業者に会員氏名。住所、遺話番号、参加人数、ソフトドリンクの希望

改めてご連絡は差し上げませんので、当日、上記会場へおこし下さい。

申込みメ切 8月17日 (木) 必着

申込み先 〒153-0061 日黒区中日黒5-22-25 大竹一子 TEL3712-7090 (8/9~8/17 東京に不在です。)



2000年校友大会実行委員 岩崎正夫 (47年前) 中两千可子 (51年文) 人竹一子 (49年商)

10月翌日(日)、母校早稲田大学で開催されます。ホームカミングデー校友大会に行わ れます福引券を多くの会員の方々よりお申込みを頂き、滅に有難うございました。

すでに130枚を超える多くのお申込みを訊き、さらに7月1日の総会時には当日も50枚 程の追加注文まで頂きました。たくさんの先輩方、後輩方誠に有難うございました。 三名の実行委員より厚く御礼申し上げます。日思輸門会と致しましても、大学に多く の協力をすることが出来ました

校友大会福明券 (一枚2,000円) をお求めいただくと、

1.購入金額相当の参加賞、早稲田グッズがもらえます。

2.売上げの半額は大学への寄付となり、後輩の奨学金となります。

3.うまくいけば企業等より出品される豪華賞品が当たります。車、海外旅行、パソ

以上の3つの特典があります。

当日果核されなくても福州券は実行委員が保管。チェック、結果連絡を致します。 つきましては、またご購入申込みをされていらっしゃらない会員の方々、お申込み を忘れていらした方、日黒福門会福引券も残り僅かとなって参りました。ぜひこの機 会にお申込み下さい。メ切問近です。申込書ご入り用の方は岩崎さん迄ご連絡下さい。

TEL: 5723-8156 FAX: 3716-4020 さあ、まだの方、お申込みをお忘れなく

奥日光 戦場が原を歩く旅 旅行部会

"智さもほっとする頃・・・"

清流や湿原に沿い、ミズナラの林を通り、男体山を 眺めながらのハイキングに行きませんか!!

歩行時間は約6kmで2時間半程の行程で、どなたにも歩ける平坦な遊歩道。 戦場が原自然研究路です

ご家族、ご友人の方もお誘いの上、ご参加下さい。

楽しいバス目帰りで、帰りの重申は早稲田大学修学旅行状態の大盛会となり # -1"

10月8日(日)目黒駅午前7:00出発(貸切バス)

旅行代金 9,800円・・代金は25名-29名で設定のため、30名以上参加の

場合は、1000円程のご汲金が出来ます

代金に含まれる物 バス代、消費税、昼食用お弁当、お茶帰りの車中の海ビール等

アルコール代、お茶、おつまみ代、通信費等です

行き先 日黑駅 (7:00出発) -- 首都高·東北道·日光字都宮道路--清流--

いろは坂=湯流(ウェーキング出発)…泉門池…戦場が原自然研究

路……石楠花橋 … 盆頭橋 … 盆頭の滝 ウィーキング終立

休憩所一清流一日光字都宮道路·東北道·首都高一日思(20:00 f/2) 県書に会員名、〒番号、住所、電話番号、参加人数を明記の上

申込み方法 申込みください。詳細をお送りします。

申込みメ切 8月31日(木)

〒153-0061 日黒区中日黒5-22-25 大竹一子 申込み先

TEL 3712-7090(8/9~8/17 東京に不在です。)

〈特別寄稿〉

「集り散じて 人は変れど・・・」

昭三三商学 八幡和三郎

シルバー・エイジ生活を充実させるには、よき友・よき趣味・よい健康が必要 だといわれています。

目黒稲門会に入会すれば、よき友・よき趣味が即座に手に入るのですから、 この会は素晴らしい。

私は囲碁、旅行、ダンスの部会に参加しています。とくにダンス部会は、夫 人同伴の会員が多く家庭的です。私も家内と一緒に、早稲田の卒業生の集りと いう雰囲気を楽しんでいます。

囲碁の会には、大先輩が綺羅星のごとくおられます。目黒稲門会の真仁田会 長が、自ら部会長を務められているのには恐縮いたしますが、五・六段の打ち 手が揃う、レベルの高い会です。

さて本題に入ります。

最近私は、目黒稲門会のなかで、早稲田に学んだ人間同士の、思いもかけない出会いを体験しました。

早稲田大学校歌の一節「集り散じて 人は変れど、仰ぐは同じき 理想の 光・・・」を、あらためて復誦した次第です。

人と人との結びつきの物語に、しばらくお付き合いください。

話は九十年前にさかのぼります。明治四十四年(1911年)、早稲田大学野球部 は第二回のアメリカ遠征を行いました。

遠征は約五ケ月におよび、この間には五十三試合を行ない、十七勝三十三敗 の成績でした。

だいぶ負け越していますが、UCLA、スタンフォード大学、シカゴ大学、ユタ大学、海軍兵学校、イリノイ大学などの有名校とも戦い、野球の本場アメリカでの成績としては善戦したといえます。

私の父八幡恭助は、このアメリカ遠征チームのメンバーでした。一番または 二番打者の外野手としてこのチームに参加したのです。

私の家には、父がアメリカへ遠征した時の写真が、数枚残っています。

写真はその内の一枚で、第二回アメリカ遠征野球チームのメンバーが、大隈 重信公へご挨拶に参上したときのものです。

前列右から四人目、シルクハットをかぶった方が、いうまでもなく大隈重信 公です。

その左のソフト軸の方は高田早苗学長、さらにその左が坪内遺遺博士と続きます。

大隈公の右の眼鏡をかけた方は、渡米チームを引率し、米国各地を五ケ月間 の旅をされた高杉滝蔵先生。その右の鼻下に髭を蓄えた方が、早稲田野球の父 と呼ばれる安倍磯雄先生です。

二列目、三列目に学生服を着て立っているのが渡米チームの選手たちで、後 列向かって左から二人目、やや太めの学生が、父八幡恭助の若き目の姿です。

大隈公以下前列の方は、父の筆で写真の裏に名前が書き残してあり、どなたかすぐに分かりました。しかし、父以外の学生服の選手は名前が特定できません。

当時の父は、選手同士は名前を忘れるはずがないと思い、敢えて書き残す必要はないと判断したのでしょう。

私の見良二は、早大野球部OBで、福門倶楽部(野球部OBの会)の役員ですが、いま「野球百年史」の編纂に熱中しています。この兄と私で、この写真の選手の名前を調べられないかという相談になりました。いろいろと考えましたが、結局選手の家族に見ていただく以外は無理という結論に達し、福門倶楽部の名簿を頼りに、ご遺族に電話を掛けてお願いをすることにしました。

しかし、いざ実行してみると、九十年の時の流れは大きいものでした。

ほとんどのご遺族は所在が不明のうえに、稲門倶楽部名簿に掲載してある番号に電話しても、テーブに吹き込んだ「この電話はすでに取り外されました」の声がむなしく返ってくるだけだったのです。

いささか諦め気味になったとき、一軒だけ電話が通じたお宅がありました。

チームの外野手として、アメリカへ遠征した三神吾朗さんの長女馬場淳子さんが、電話に応じてくださったのです。

さらに、写真を見ていただき、写真中のどの学生が、父上の三神吾朗さんか を教えていただきたいという私たちの希望も、快く受け入れてくださいました。

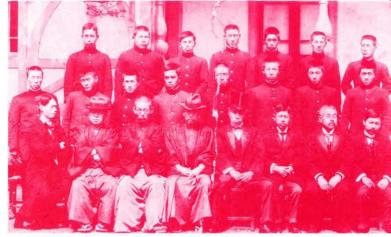
野球の歴史に興味ある方は、三神吾朗さんの名前に記憶があると思います。

この三神吾朗さんこそが、野茂投手に先駆けること八十年以上も前に、アメリカのプロチームで、初の日本人プレーヤーになった人だったのです。

三神さんに関しては、一米プロ野球日本人第一号を追うー 「ジャップミカドの謎」という本が、文芸春秋社から出版されています。

また、TBSテレビの特別番組になったこともありますし、いくつかの本や記事に取り上げられています。

ご承知の方もおられると思いますが、その経歴を簡単の紹介させていただきます。



三神さんは、早稲田時代は外野手として活躍され、在学中にハワイ、アメリカ、フィリピンと、三度の海外遠征を経験しました。

さらに早稲田大学を卒業後、シカゴ近郊のイリノイ州ゲイルズバーグにある ノックス・カレッジに留学し、その後イリノイ大学に学び、修士号を得ていま す。

ノックス・カレッジの野球部では、ショートを守り、キャプテンに選ばれました。しかもその間に、オール・ネイションズというプロチームで、快足の遊撃手として、ブレーをしていたというのです。

アメリカでは、未だ人種偏見の激しかった時代に東洋人にもかかわらず、伝 統あるカレッジのキャプテンに選ばれる。それだけでも、卓越したリーダーシ ップと、よき人柄を併せ持った方だったことが推察されます。

興味のある方は、佐山和夫著の「ジャップミカドの謎」をご一読ください。 読後感のさわやかな気持ちのよい一冊です。

ある土曜日の午後、兄の良二と私は、写真と三通の手紙を持って、自由が丘 のお宅に、三神吾朗さんの長女、馬場淳子さんを訪ねました。

身勝手な訪問にもかかわらず、次女の桑野順子さんも同席してくださり、歓迎していただきました。

早速、写真を見ていただき、お父上の三神吾朗さんを指定していただきました。その結果、三神さんは後列向かって右から三人目の方だということが分かったのです。

実は、我々兄弟は、他の本に載っている写真などから推定して、三神さんは 後列右端の方だと思っていたのです。やはりご家族の目は確かです。我々は危 うく間違いをおかすところだったのです。

持参した三通の手紙は、ノックス・カレッジに留学中の三神さんが、野球部 の合宿にいた父恭助など、後輩たちに宛てたものです。

文中で、三神さんは英会話を習得する苦労や、早稲田とワシントン大学の野球の試合についてなどを、二十歳代の人が書いたとは思えないほどの達筆で、書きおくっています。

写真や手紙を話題にした話に花が咲き、あっというまに時間が過ぎました。 辞去することになりご挨拶をしたとき、次女の桑野順子さんが

「八幡さんは、日黒区にいらっしゃるようですが、日黒稲門会の会員ですか と、私に聞きました。

「はあ、そうですが・・・・・」

と答え、私はここでハット気がつき

「桑野さんという囲碁の強豪が、自由が丘におられると聞いていましたが、その 桑野さんがご主人ですか・・・・・」

と聞きかえしました。私も、ここでやっと事情が分かったのです。

さてここで一転して目黒稲門会の囲碁部会の話に戻ります。

先に述べましたように、会員には五・六段クラスが多数いて、荒瀬先輩、星 野先輩、真仁田会長などは、いずれも劣らぬ強豪です。! かし、未だ対局の機 会に恵まれない強者に桑野さんなる名があり、私* の日か対局をお願いし たいと考えていました。

なんと、このまほろしの強敵桑野さんが、父がアメリカ遠征をともにした三神吾朗さんの次女順子さんのご主人だったのです。

三神さんは甲府中学の出身。父は岩手県水沢の出ですが、神奈川一中の出身でした。しかし、大学時代の夏休みに、地方の中学のチームをコーチする時は、いつも二人で出かけています。二人はとくに気があう仲だったのでしょう。 九十年まえ、五ケ月にもおよぶアメリカ遠征のとき、二人は、異国でなにを感じ、なにを話しあっていたのでしょうか。

そして囲碁好きであった二人は、自分の娘婿と息子が、囲碁のライバルと知ったら、顔を見合わせながら苦笑して、なんと言うのでしょうか。

目黒稲門会は、思いがけない人と人との交流を生んでいます。 こんごも、おなじ早稲田の森に、集り散じた人と人との結びつきを、 ますます深めることができればと思うのは、私だけではないと思います。

以上